

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

オンライン会議（ビデオ/Web/音声）システム市場専門トレンドワッチ

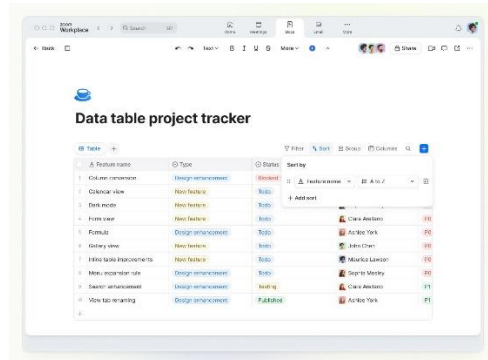
Vol. 26 No.15 2024年8月31日

製品・サービス動向-国内

■ZVC Japan：AIファーストの「Zoom Docs」が「Zoom Workplace」にて提供開始

(PRTIMES：8月7日)

ZVC Japan株式会社 (<https://zoom.us/ja>) (東京都) は、AIファーストでドキュメント作成ができるソリューション「Zoom Docs」を本日(北米：8月5日発表)より提供開始する。



Zoom Docs イメージ (ZVC Japan)

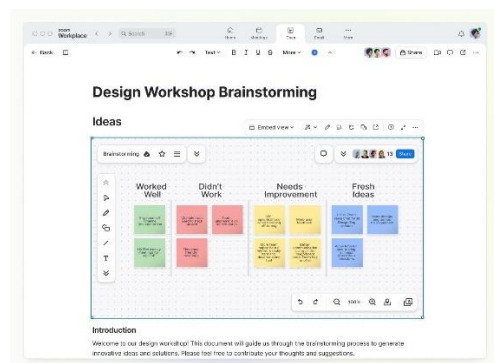
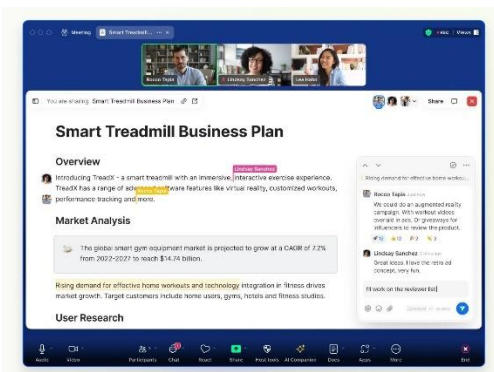
Zoom Docs の想定使用例としては以下のとおり。

(1) 会議でのコラボレーション：Zoom Docs は AI Companion により、会議の内容を実用的なドキュメントに変換し、会議の要約を議事録と一緒に一元管理し、会議内でのドキュメントの共同編集（ひとつの Zoom Docs 内で最大100人のユーザと同時編集可能）を促進することで、会議のコラボレーションを簡素化する。

(2) ビジネス文書：コンテンツ、ビジネス提案書、報告書などの作成において Zoom Docs 向け AI Companion を使用すると、コンテンツの作成、修正、要約、そしてグローバルチームは簡単に翻訳（日本語を含む9言語。追加言語をサポート予定）を行うことができる。

(3) プロジェクトの計画：Zoom Docs は複雑なプロジェクトの計画にも役立つ。製品ローンチ、マーケティングキャンペーン、イベント管理などさまざまなユースケースに対応可能なプロジェクト概要とトラッキングのテンプレートによって作業時間を短縮する。

(4) 情報ハブ：ナレッジベースの作成、チームのオンボーディング、目標達成のための進捗管理に役立ち、ユーザは単一の情報源として堅牢な Wiki を構築する



Zoom Docs イメージ (ZVC Japan)

Zoom Docs は、追加費用なしで利用可能な Zoom の生成 AI アシスタント「Zoom AI Companion」を搭載しており、「Zoom Workplace」全体で生産性向上とシームレスなコラボレーションを促進する。

ことができる。

Zoom Docs は、Zoom Workplace の中核である「Zoom Meetings」による会議の前後および会議中のコラボレーションを強化することで、ユーザの連携を強化し、より良い成果を達成することができるようになる。

■アバー・インフォメーション：AI 自動追尾リモートカメラ「TR211」を新発売

(PRTIMES:8月29日)

アバー・インフォメーション株式会社 (<https://jp.aver.com/default.aspx>) (東京都新宿区) は、AI 自動追尾リモートカメラ「TR211」を新発売する。



AI 自動追尾リモートカメラ「TR211」
(アバー・インフォメーション)

Aver の AI 自動追尾リモートカメラのラインナップに新たに変わった「TR211」は、フル HD 1080p/60fps の高解像度に加え、最大 144 倍ズーム (光学 12 倍 x デジタル 12 倍)、AI 自動追尾機能を搭載した、放送から動画配信、動画収録など幅広いシーンで活躍するリモートカメラ。

人物やコンテンツの細部に至るまで、高画質映像で鮮明に映し出すことができ、AI 自動追尾で、開始位置の人物を瞬時に検知し、自動で追尾・撮影することができる。AI 自動追尾では、「プレゼンターモード」「ゾーンモード」「ハイブリッドモード」という 3 つのモードが利用可能で、動きのあるリアルな映像も届けることができる。



TR211 の出力端子 (アバー・インフォメーション)

出力端子については、HDMI/USB/IP/3G-SDI の 4 系統の出力端子をサポート。また、PoE+給電にも対応しているため、配線を簡素化できるだけでなく、設置場所や周辺機器との組み合わせに応じて、最適な接続方法を選べるようになっている。

さらに、シーリングマイクなどの外部マイクと Aver のリモートカメラを連動させることにより、発言中の人物にカメラを自動的にパン・チルト・ズームして撮影を行うこともできる。

■PHONE APPLI：「PHONE APPLI PEOPLE bot」が「Copilot for Microsoft 365」上で連携が可能

(PRTIMES：7月9日)

株式会社 PHONE APPLI (<https://phoneappli.net/>) (東京都港区) は、「PHONE APPLI PEOPLE bot プレビュー版」において Copilot プラグインを用いて、「Microsoft Copilot for Microsoft 365」との連携機能リリースすることを発表した。

Copilot for Microsoft 365 との連携機能を利用することで、Microsoft 365 内で蓄積された情報に加えて、PHONE APPLI PEOPLE 上で管理されたスキルや資格・略歴などの情報で人物検索が可能になる。

Copilot for Microsoft 365 上から PAP bot を呼び出せる機能連携を実現した。PAP bot は、社内で適切な人物を見つけ出し、円滑なコミュニケーションを支援する。Microsoft Teams 上で利用できるこの連携機能

は、会話ベースで社内の適切な人材を見つけ出すことができる。

例えば、Copilot in Teams から「〇〇について詳しい人は？」と日常会話の自然言語で質問することで、利用者は負担なく操作することが可能で、また、迅速に適切な人物を推薦する。その結果から、プロフィール参照や Teams 通話、Teams チャットなどを即座に開始できる。加えて、社員への会議招待や資料検索などの追加アクションも容易に実行できるため業務の効率化が図れる。

PAP bot はプレビュー版だが、今後もユーザのフィードバックをもとに、より迅速で正確な結果を表示できるよう改善を続け、有益性の高いサービス提供を目指す。

なお、本機能は、PHONE APPLI PEOPLE bot(プレビュー版)と「Copilot for Microsoft 365」を契約しているユーザが利用できる。同社に問い合わせた上で、Teams 上の「アプリストア (AppSource)」から「PHONE APPLI PEOPLE bot」を追加することで利用可能となる

ビジネス動向-国内

■ZVC Japan：「日経コンピュータ 顧客満足度調査 2024-2025」ビデオ会議・音声会議システム/サービス部門で顧客満足度1位を獲得

(PRTIMES：8月29日)

ZVC Japan 株式会社 (<https://zoom.us/>) (東京都) は、株式会社日経 BP (<https://www.nikkeibp.co.jp/>) (東京都港区) による「日経コンピュータ顧客満足度調査 2024-2025」のビデオ・音声会議システム/サービス部門において、顧客満足度1位を獲得した。

今回の調査では、全5評価項目中「性能・機能」「信頼性」「サポート」の3項目で最高スコアを獲得。

今後も Zoom は、「すべての人に幸せを届ける」のカルチャーのもと、コラボレーションプラットフォームを通じてユーザの生産性を向上し、幸せに働けるよう支援していくという。



ビデオ・音声会議システム/サービス部門

日経コンピュータ顧客満足度調査 (ZVC Japan)

日経コンピュータ「顧客満足度調査」は、コンピュータの利用企業を対象に、システム開発・運用サービス、PCサーバやERPといったハードウェア/ソフトウェア製品などを提供するITベンダーに関する満足度を調査したもの。日経BPIT総合誌「日経コンピュータ」が企画・実施し、調査・集計は日経BPコンサルティングが行った。調査対象は全国1万2122の企業または団体・組織の情報システム部門。新興市場を含む全国の証券取引所に上場している企業と年間売上高200億円以上の未上場企業、および官公庁と村を除く地方自治体(都道府県、市、区、町)に対し、情報システム部門担当者あてにアンケートを郵送した。調査期間は2024年4月1日～5月21日までで、1015件の有効回答を得た。

ビジネス動向-海外

■Zoom社：Apple社ワールドワイドセールス担当副社長 Mike Fenger 氏を社外取締役へ任命

(8月26日)

Zoom Video Communications社 (<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州) は、Apple社のワールドワイドセールス担当副社長 Mike Fenger 氏を、Zoom Video Communications社取締役会の社外取締役に任

命したことを発表した。

Mike Fenger氏は、Apple社やGE社などの企業での経験を通して、グローバルリーダーシップの実績を積んでおり、その経験はZoom Video Communications社のビジョンと完全に一致する貴重な洞察力をもたらすと同社では期待している。

Mike Fenger氏は、Apple社のグローバル製品販売を統括しており、彼のチームは顧客が好みの製品を見つけられるよう支援する上で重要な役割を果たしている。2008年にApple社に入社して以来、彼は通信および消費者向け電子機器の再販売業者とのパートナーシップを強化し、企業のほか、教育機関、政府機関の顧客とのつながりを深める上で重要な役割を果たした。加えて、Apple社でのキャリアをグローバルiPhone販売担当副社長としてスタートし、世界中の顧客へのiPhone販売の拡大を指揮した実績もある。

同氏は、グローバル企業で営業チームの構築と指揮に20年以上携わってきた。Apple社に入社する前は、GE社とモトローラ社で幹部を務め、南北アメリカ、ヨーロッパ、中国本土で営業、オペレーション、マーケティング、サプライチェーン管理の戦略策定と実行に携わる。マイアミ大学卒業し、経済学の学士号を取得している。

■Neatframe社：ノルウェー発ビデオ会議デバイス・ブランド「Neat」、フロスト&サリバン社のレポートで「高成長・高イノベーション企業」として高評価

(PRTIMES:8月20日)

Neatframe株式会社 (<https://neat-japan.com/>) (東京都千代田区) は、フロスト&サリバン社の最新レポート「会議室用ビデオ会議デバイス 2024：企業を行動に駆り立てるベンチマークシステム」で高い成長性と高いイノベーション性を評価されたことを発表した。

フロスト&サリバン社の独自調査「Frost Radar」では、ビデオ会議デバイスベンダー50社以上の中から選ばれた14社が詳細に分析されNeatは高成長かつ高イノベーションの象限に位置づけられた。特に注目すべきは、Neatが2019年に設立以来、55か国にわたり13,000社以上の企業に採用されるまでに急成長し、業界トップクラスのCisco社やLogitech社と並び、業界をリードする存在として浮上したことを示す。Neatはデザインとユーザエクスペリエンスにフォーカスし、ビデオ会議の体験を再定義するプロバイダーとして確固たる地位を築いている。

独自の音響技術とAI機能により、会議体験を大きく向上させている。フロスト&サリバン社のレポートでは、Neatデバイスがもつディープノイズ抑制、残響の除去、ダブルトーク問題の解消、聴覚アクセシビリティサポートなどが高く評価されているとともに、特許技術である「Neat Symmetry」と「Neat Boundary」も革新的な機能として注目されている。加えて、音響機器メーカーのShure社との提携により、大規模な会議室や音響的にチャレンジングな環境でも優れたパフォーマンスを発揮できるようになっているという。

現代のエコ意識の高い顧客に応えるため、Neat社はサステナビリティの向上にも取り組んでいる。フロスト&サリバン社のレポートでは、Neat社が電力消費を80%削減する自動ウェイクシステム、梱包材のリサイクルプラスチックの使用拡大など、サステナビリティに対する具体的な成果を上げていることが取り上げられた。

Neatは、ハードウェアとソフトウェアの両方で革新を続けている。クラウドベースのプラットフォーム「Neat Pulse」により、すべてのNeatデバイスをひとつのダッシュボードから管理できるようになり、リモートでのデバイス展開や更新、設定変更が可能になった。これにより会議室の使用状況や環境データの分析もできるため、運用効率が大幅に向上する。さら

に、「Neat App hub」を通じて、会議室やホットデスクの予約アプリ、Lucid や Miro といったコラボレーションアプリ、SalesForce や Trello などエンタープライズソリューションが利用可能になり、ユーザにさらなる柔軟性を提供している。

Neat は、リモートワークとオフィスワークの間のギャップを埋め、エンゲージメントと会議満足度を高めるため、常に新しいソリューションを提供し続けている。

導入利用動向-国内

■Neatframe：北海道銀行、Neatのビデオ会議デバイスを採用・導入、臨場感ある映像とオーディオ、直感的な操作性と安全性が高評価

(PRTIMES：8月26日)

Neatframe 株式会社 (<https://neat-japan.com/>) (東京都千代田区) は、株式会社北海道銀行 (<https://www.hokkaidobank.co.jp/>) (北海道札幌市) が Neat のビデオ会議デバイスを導入したことを発表した。

北海道銀行は、これまで使用していたオンプレミス型のテレビ会議システムに代わる新たなソリューションを検討していた。Zoom の利用が増加していたものの、従来のシステムでは使いづらさが課題となっていた。さらに、本店移転を控えており、ビデオ会議ができる会議室の増設も計画していたため、最新で最適なビデオ会議システムの導入が急務となっていた。

複数のビデオ会議システムを比較検討し、最終候補として Neat ともう 1 社の製品を選定した。両社の実機を試用した結果、Neat の製品が利用者と管理者双方の視点で高評価を受け、導入に至る。



Neat Bar Pro



Neat Frame



Neat Board 50
(Neatframe)

導入した機材は、30 名程度の大会議室用で 50 メガピクセルカメラ 2 つの高解像、16 個のマイクアレイで 10m の收音性能を実現した「Neat Bar Pro」、持ち運び可能でタッチディスプレイ一体型の「Neat Frame」、50 インチタッチディスプレイ一体型の「Neat Board 50」。「Zoom Rooms」のほか「Microsoft Teams Rooms」などで認定デバイスとなっている。

これらの製品により、北海道銀行は以前のシステムに比べて大幅な改善を実現した。

(1) 以前は目の前のマイクに向かって話すなど接続先の相手を遠く感じたが、Neat での会議では、マイクを意識することもなく、声も途切れないので同じ空間にいるような自然な会話が可能になった。

(2) 以前の機器では、常設の会議室でも会議貸しまでに 5 分程度を要したが、Neat 常設の部屋であれば画面をタップしてすぐに会議が開始できる。また、持ち運び可能な Neat Frame であれば、電源を入れたら 1 分もかからずにその場がビデオ会議スペースになる。

(3) 以前のシステムでは機材や配線が多く、多くの準備が必要だったが、Neat のデバイスはスタイリッシュで余計な配線もなく、構築後も部屋がすっきりし

ている。

(4) マニュアルの整備やトレーニングなどが不要で、誰でも直感的に利用が可能になっている。

Neat の製品は、北海道銀行が求める、効率性と安全性がある会議体験を提供することができた。高品質なオーディオとビデオで対面しているような自然なコミュニケーションを直感的操作で簡単に実現し、お客様の業務効率の向上に貢献している。

導入利用動向-海外

■RevComm：電話解析 AI「MiiTel Phone」、インドネシアの労働省に導入

(PRTIMES:8月14日)

株式会社 RevComm (<https://www.revcomm.co.jp/>) (東京都渋谷区) が提供する電話解析 AI「MiiTel Phone」が、インドネシアの労働省に導入されたと発表。

MiiTel Phone がインドネシアの労働省に導入され、同省が実施する独立支援プログラムならびに雇用機会拡大プログラムにおいて、問い合わせ者や応援者とのコミュニケーション強化による公共サービスの質向上に活用されるという。

MiiTel Phone の活用により労働省は、応募者からの問い合わせに迅速に対応することができる。また、MiiTel Phone により電話内容の自動録音・文字起こし・要約・音声解析・感情解析を行うことで、プログラムに対するニーズを的確に把握・分析することができるようになる。

起業家支援プログラムは起業家支援を通じて雇用機会を拡大するプログラム。起業に関心のある求職者を対象に、国公立・私立大学の専門家により資本提供と参加者の指導を行うもの。労働集中プログラムは、地域に根差した雇用機会拡大プログラムで、雇用の提供だけでなく、経済的アクセスを支援するための施設やインフラを提供し、地域経済の改善を目指す。同労働

省によると、2024年にインドネシア全土で44,000人の起業家支援プログラムを実施予定という。

インドネシアにおける政府機関への導入は、2023年10月のインドネシア社会保険庁(BPJS)への導入による医療保険制度の利用強化支援に続き二例目となる。

セミナー・展示会情報

<国内>

■オンライン会議【革命】ハンズオンセミナー
プロから学ぶ！マイクデバイスと Rooms のエクスペリエンスデザインをご紹介します

日時：9月19日(木)午前の部 [9:30 開場 10:00 開演]

9月19日(木)午後の部 [14:30 開場 15:00 開演]

9月20日(金)午前の部 [9:30 開場 10:00 開演]

9月20日(金)午後の部 [14:30 開場 15:00 開演]

会場：SHURE 東京エクスペリエンスセンター

主催：VTV ジャパン株式会社

協賛：SHURE、Lenovo、Aver

詳細・申込：<https://www.vtv.co.jp/seminar/2409vtv/>

■ブイキューブセミナー情報 (9月)

「V-CUBE EVENT SUMMIT 2024」「ビジネス電話改革！クラウド PBX でどう変わるのか?」「ウェビナー開催入門」など

会場：オンライン/オンデマンド

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー (9月)

「【利用者向け】今月の Webex アップデート活用方法 (8月)」など

会場：オンライン/オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training/events/events-webinars/collaboration-webinars.html

■Zoomtopia (APAC, EMEA, and Japan)

日時：10月10日(木)

会場：オンライン開催のみ

主催：Zoom Video Communications

詳細・内容：<https://zoomtopia.com/>

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jpサイトの情報もご参照ください。

■業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回(プレスリリースと取材に基づく記事のみ)ですが、CNAレポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック(遠隔会議&UCトレンドワッチ)

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■X(旧:Twitter)(遠隔会議&UCトレンドワッチ)

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト(dtc-forum)

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

■定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー(1999年~最新号)

は下記URLで閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2024年8月31日号

ホームページ：<https://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp